

「事業名:福島復興知学の構築・展開・加速事業」 2020年度事業の概要

東京大学（共同申請校:福島工業高等専門学校）連携市町村:楡葉町、飯舘村、広野町、いわき市、南相馬市
現地拠点:双葉郡楡葉町下小塙麦入31楡葉町まなび館2階、相馬郡飯舘村佐須滑87(認定NPO法人ふくしま再生の会事務所内)

事業のポイント

1. 東京大学内8部局、福島大学(連携)、福島高専(共同申請)が協力して、福島復興知学講義を開発し、教科書を作成する。
2. 飯舘村・楡葉町等の浜通りの東大拠点をフィールドワーク実習や学内外の共同教育研究拠点として整備・活用する。
3. 復興知事業の国際的認知度の向上を目指した国際ワークショップや国際交流事業を実施する。さらに、復興知学を発展させるための教育研究も推進する。

2020年度の取り組み内容

①福島復興知学講義の実施と教科書作成

福島県浜通りでの教育研究活動で得た知見を体系化した福島復興知学講義を開発する。この講義では、地元自治体等と連携したフィールドワークを実施して大学生等の教育を行う。さらに、この講義の内容をまとめた教科書を作成する。

②浜通り東大拠点を活用したイノベーション・コースト構想事業の長期的継続と拡大

浜通りに展開する東大の複数拠点をネットワーク化し、イノベーション・コースト構想の推進に関わる幅広い分野をカバーできる面的拠点を形成する。拠点では、福島復興知学講義の実習、大学等間・自治体・民間企業との共同研究等を実施する。さらに地元住民への情報発信も行う。

③国際化も視野に入れた、学内および大学等間の連携強化と教育研究の推進

東大拠点を活用した国際ワークショップ開催や資料の多言語化を行うことで、復興知事業の国際的認知度を高める。さらに、復興知学を持続的に発展させるための教育研究活動も推進する。

取り組みによって得られる成果

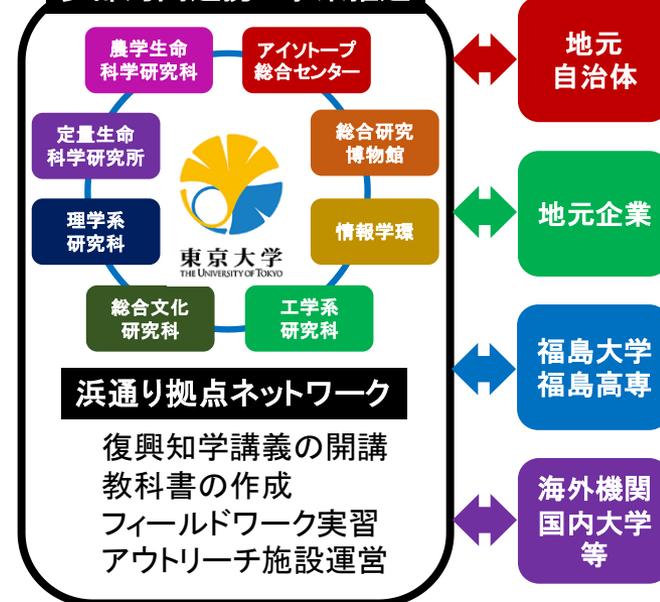
1. 新学問領域「復興知学」の確立と次世代への継承

本事業を展開することにより、東京大学がこれまでの活動で蓄積してきた復興に関する多様な知識・ノウハウを体系化し、全国の大学等に提供することで、復興知学を構築できる。

2. 復興知集積拠点の整備と国際的情報発信

浜通り拠点ネットワークを活用して、地元自治体・企業・住民とも連携した教育研究の場を構築する。これらにより、東大が浜通り関係者と持続的に連携し、関係を発展させる機会を作ることが可能となる。さらに、この拠点から国際的な情報発信も行う。

多部局間連携で事業推進



本事業の概略図

福島復興知学講義を開発する。さらに復興知に関する新しい教科書を作成する。

浜通りに展開する東大拠点を充実し、「復興知学教育」と「イノベーション・コースト構想を推進する研究」を持続的に発展させる体制を構築する。また、拠点には事業成果や大学の「知」を情報発信するアウトリーチ機能も持たせる。